

# 1 自己評価及び外部評価票

## 【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹 936 - 1		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月27日

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください( このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100062&amp;SCD=320_">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100062&amp;SCD=320_</a>
----------	---

## 【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎1-4-46メゾン蟻ヶ崎103
訪問調査日	平成22年3月25日

## 【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

利用者様にとって、家にいるような穏やかな生活、メリハリのある生活、個々の気持ちを理解した対応を心がけ、「家庭的で尊厳のある生活環境の中で、心身の力を生かし、やすらぎと喜びのある場として利用者様とご家族の幸せを追求する」この運営理念をスタッフ皆で深く理解し、利用者様の幸せ、そしてご家族の幸せにつなげていけるよう支援させていただいています。

## 【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

ホームを本人と家族が共に幸せが交わる場所として位置付け、数々の家族参加行事の開催、面会時には快い対応を心掛け、利用者本人の生活状態の細かな説明を行っている。毎月発行される「太陽通信」では本人の生活内容を分かり易く提供し、家族の満足度が高く、安心・幸せに繋げている。このホームには廊下も無くスタッフルームからの死角の少ない構造とするなどの工夫されている。グループホームを取り巻く危険に対しても都度検討を重ねており、長野市でのスプリンクラーの追加設置は最初であると聞く。利用者のできること探しなど、日々の利用者個々の記録を活用する取組が始まると、よりサービス内容の充実・質の向上へ結びつくと思われる。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( ひまわり )		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	63	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんど掴んでいない	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	64	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	66	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員は、活き活きと働いている (11, 12)	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	68	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	徐々にではあるが、スタッフに事業所理念が浸透し、自分たちが利用者様にどんな関わりを持つべきか理解し行動されている	「利用者とその家族の幸せを追求する。」という理念を機会があるごとに話し合い、意識付けがされ具体化に向けて努力している。	事業所理念の周知度の向上により、具体的な具現化の方法の検討をして、利用者一人ひとりの計画に具体的に落とし込む必要を感じる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様がとても温かく、日常的な交流(散歩等でのあいさつ)、お茶のみサロン、地域行事、地域ボランティア等月日を重ねるごとに交流が深まっている	町会に参加して地域行事への参加や小中学生の来所、地域の社会資源の活用等が確認できた。	地域へ積極的に認知症の専門事業所として情報発信をするなど、真の交流となる取組を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームや認知症に対する理解を深めていただけるよう運営推進会議、地域行事への参加等、様々な形で伝えていく心がけている	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1度の運営推進会議は行えていなかったが、会議を行った際の内容として、地域の方々、利用者ご家族等の意見を多々聞くことが出来、今後のサービス向上に繋がる	運営推進会議において、参加者からの意見・要望をくみ取り、サービスの向上に活かしている。	定期的な開催として、検討・改善などの取組の事実について報告し、多くの意見・要望が出やすい環境作りを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点、問題点などがあれば、市の担当者との連絡を取り合い、指導を仰ぎ、サービス向上に取り組んでいる	相談事項や問題解決に向けて、市の担当者とは日常的な関係が確認でき、住環境整備の改善に活かしたこともある。	全職員の参画により、事業所の抱える課題を整理・集約し、市に関係するものは積極的に伝えていくことを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームとしての身体拘束について玄関の施錠を含め、行動の拘束、気持ちの拘束、というものについても身体拘束をしないケアとして理解し、取り組んでいる	施錠はもとより、行動拘束・精神的拘束をしない取組が確認できた。	身体拘束排除の体制の整備・充実を期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内ではどのような状態、変化があっても虐待を見過ごすことの無いよう徹底している	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在特定の管理者のみが学び、理解している状態であり、事業所に各制度を理解したスタッフがいる体制である		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金等の説明を行い、ご家族の方の不安や疑問点について話し合いをし、同意、理解していただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にもホーム苦情担当、公的苦情場所を記載し、意見をどこに、誰に伝えることができるかを明確にし、またご家族のご意見は「より良いグループホーム」づくりをしていくための貴重な意見と捉え、伝えやすい雰囲気作りを行い、意見投書箱を設置している	利用者・家族からの意見等に対して速やかな対応に努め、サービスの提供内容の改善・向上等に結び付け、理解を得ている。	より多くの意見・要望等が集まる、環境の工夫・整備の必要を感じる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議以外でもスタッフの提案や意見を聞く場を開き、意見を反映するように心がけている	会議では現場職員の意見・提案を基に検討・反映するなど、日常的な職員の意見の把握に努めている。	利用者・家族の求める価値を把握する事により、更に事業所運営に活かす事ができると思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持ち、努力をしているスタッフには声をかけ、感謝の気持ちを伝えることで互いの気持ちを理解できるよう心がけ、また少しずつ職場環境の整備をしていくことを心がけている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフが必要とする研修を把握し、社内外の研修受講の希望を聞き、全スタッフの介護の質の底上げに努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会をはじめ各介護サービス種の管理者や運営者と交流を持ち、情報を共有することでサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の書類による情報を元に入所前にホームに来ていただき、お茶をしながらスタッフと、他の利用者様との会話などをして雰囲気を見ていただき、不安等を取り除くことができるよう取り組んでいる		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、または面談時などご家族の不安やご家族の気持ちを深く理解するよう努め、不安や心配に感じていることを解消する方法を過去の事例や現在のホームの状況を伝えながら、共に考え、受け止め、改善できるよう前向きな話し合いをしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、また申し込み、面談を行う際、できるだけ細かい情報をいただき、その後利用者様に何が 필요한のか、どんな心配事やご家族の悩みを持っているのかなどを確認し、その時々々の状況に応じて対応させていただいている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩と思い、相手を尊重する気持ちを忘れず、常に会話を多く持つことにより職員の一方的な思いでの指示や行動を控え、より良い関係作りを心がけている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族(キーパーソン)面会時、ご本人様の状況をお話し、その他にも管理者とご家族での会話を中心に、ご家族やご本人の考えを尊重している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様によって差はあるが、ホームに来てくださる友人、知人の方々との関係は続いている	利用者にとって馴染みの方が面会に来ることも有り、関係は続いている。	利用開始前の情報収集を充実させ、馴染みの人・場所などとの接点を作り出す支援について、見直し・検討を期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性についてスタッフは情報を共有し、ご利用者様同士、またはスタッフが一緒に交わりながら孤立しないよう努めている。またテーブル席等にも配慮し、関係づくりを心がけている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた御利用者様、ご家族とは面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々ただ会話をするのではなく、ご利用者様が行っていること、話していることを情報として捉え、希望やできることを行えるよう努めている	共に生活する中で思いや意向を捉え、家族からの情報を得て、本人の希望に沿う支援に努めている。	把握した情報の集約・整理を充実させ、計画に活かすことを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様の背景を理解し、生活の中で発見した事、ご本人の思いや要望などは皆で共有し、ケアの取り組みに生かしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの過ごし方を観察し、ニーズを探る。またできること、できないことの判断を共有し、支援していくよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族のニーズを理解し、また現状の課題等についてを話し合い、利用者様毎の個別計画を作成してる	職員会議で利用者一人ひとりについて話し合い、本人・家族の意向を踏まえた介護計画を作り、家族への内容説明、話し合いが行われている。	利用者個々の日々の情報の集約、認知度の変化の把握など、モニタリングの充実とそのサイクル化を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	安全面、喜び、役割等利用者様に対する“発見”をスタッフ皆で共有し、しっかりと記録記載を行うよう努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、御家族の状況により、ホームで支援できることは出来るだけやらせていただき、また生活保護者等に対する柔軟な対応により社会貢献していくことを目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では日常生活の中での交流(あいさつや会話)、お茶のみサロン等にも呼んでいただき、地域の中で穏やかな気持ちで地域を感じることを出来る生活がある		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の納得が得られたかかりつけ医との関係を築き、また専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制である	かかりつけ医等の受診支援が確認でき、二週間に1回の協力医の訪問診療を実施して、健康管理を行っている。	健康管理体制の継続と、得られた健康状態から日中活動の多様化へとつなげることを期待したい。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日の体制で利用者様の状況変化に対して相談、受診等の対応ができる体制である		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者様のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前の本人状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の状況変化等によりご家族との話し合いの場を設けたとき、ホーム管理者、または連携医師と話し合いをし、今後の方向性を相談している	本人に状態の変化が見られたときなど、本人・家族の意向を踏まえ、関係機関・家族との話し合いで、支援方法を検討している。	認知度の把握や健康管理体制を充実させて、利用者・家族との話し合いの時期・対応など、マニュアルの充実を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な非常事態に備えて、連絡、手当て等の書類マニュアルを整え、訓練、研修を行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応は避難訓練等を含めて研修を行い理解しているが、今後、緊急時の地域との協力体制をより築いていきたい	消防署の協力の基に避難訓練を実施して、課題を明確にしている	地域との協力体制の見直しや、当日の利用者の様子や参加職員の把握など、記録として残して継続的に活用できる体制を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや誘導等の対応としてご利用者様の立場にたったケアを大切にしているが、時に声のかけ方が友人口調な時がある	利用者の尊厳を理念に謳い、利用者の尊重・プライバシーの確保に努めている。	利用者情報の周知度を上げるなど、利用者一人ひとりの思いの実現に向けた支援の見直し・検討を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当たり前の生活の中で、個々の生活リズムを大切にケアに取り組み、スタッフペースではなく、利用者様ペースを大事にし、利用者様の希望や気持ちを大切に感じることの出来るよう、取り組んでいる		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、ご利用者様のペースを大切に、希望に添えるよう対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ(髪型、つめ等)や毎日の服装にも注意し、その人らしい服装、活動を考えている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	協力病院との連携により栄養面を考え、また外食であったり、ご利用者様に調理(包丁使用や野菜皮むきなど)、洗い物などできることを一緒に行うことにより、食事、役割の喜びや楽しみを感じていただけるよう努めている	協力病院から栄養面での協力を得て、食事に活かしている。収穫の喜びを食する喜びへとつなげており、調理・片付けなどの役割を担う利用者もいる。	利用者一人ひとりの出来ること探しを充実させ、一連の食事の流れに参加させることを期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を確認できるよう何名かの利用者様には記録をつけ、栄養、水分のバランスを考えることを意識している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる限り、御自分の力を発揮してもらう中で、できない部分を共に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を行い、尿意、便意のない方でもトイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツの中の不快感をなくすよう取り組んでいる	排泄の自立支援に努め、排泄チェック表で利用者の1日の排泄記録を作っている。	排泄量と水分摂取量の記録を、事業所の記録として活かす取組を期待したい。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜類を多めに取り、また様々な飲み物を用意することで水分補給を考え、個々の利用者様により医師との相談も行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に合わせ、希望、タイミングを合わせ、入浴を楽しんでいただけるような声かけ、誘導、入浴方法に努めている	曜日や時間を決めずに、臨機応変に対応できる入浴支援を行っている。	見当識のある利用者には、基本的な利用ルールなどの検討を期待したい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様それぞれの生活パターンに合わせて必要に応じた睡眠がとれています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず服薬したことを確認することの徹底、薬が変更した時は様子観察の徹底を行い、利用者様の状況変化を察知するよう心がけている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や毎日の日課の中での役割、散歩などメリハリのある生活を行いながらゆっくり話を聞くなど、小さな喜びを大切に取り組んでいる		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、畑、買い物、日向ぼっこなど日々の中で外に出る取り組みを行っている	近所への散歩、季節に合ったドライブ、畑仕事、地域行事への参加など、積極的に外出支援を行っている。	利用者の希望の把握・その変化など、職員の記憶ではなく、グループホーム太陽全体の記録として残すことを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族のご協力をいただき、小額のお金をご自分で持ち安心される方、スタッフと共に買い物に行き、喜びを感じる事の出来るよう努めている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えにより、電話をかけていただき御家族などと話し、声を聞き安心できるように配慮し、葉書などはご本人様と一緒に読み上げご家族、ご友人からのお手紙を楽しんでいただくよう配慮している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部、個室等の温度調整を適正にコントロールし、季節にあった飾りや花を皆様に楽しんでいただけるよう工夫している	利用者が快適に暮らせるよう、こまめな温度調整と換気システムで、居心地の良い場となるよう心がけている。	季節感を味わえる環境の見直し・検討を期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では小上がり、ソファなどがあり各々の居場所でくつろぐ場面が見られ、また玄関先にもイスを設置し、外が気になる方、1人になりたい方等にも配慮し、活用されている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、御家族様の相談の中、居室空間は各々の大切な物、また日常生活品や写真などを飾り、利用者様が自分の部屋であると安心できる様配慮している	利用者が自分の部屋として感じれるように、私物等への配慮が感じられた。また、家族の持込物等に関する物品管理がなされている。	利用者の私物の管理に関する体制の見直し・検討を期待したい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の「できること」と「危険なこと」を理解し、利用者様の様子観察をしっかり行うことで安全と自立のバランスを保つよう努めている		